

## HPの多言語化に新トレンド 自動翻訳でコンテンツを充実

(株)アビリティコンサルタント

東京都渋谷区神宮前6-35-3 7F

☎03-6712-6018

<http://www.ab-net.co.jp/>

(株)アビリティコンサルタントは、ホテル・旅館を中心に2000サイト以上の制作実績を持ち、宿泊業界向けHP制作の最大手である。同社が特に重点を置くのが、インバウンド客対策としてのサイトの多言語化だ。

観光庁の速報によれば2017年4〜6月期の訪日外国人消費額は、四半期で過去最高の1兆776億円となり、国別では、中国・台湾・韓国・香港・米国の合計が消費額の75%弱を占める。この調査結果からしても、サイトの多言語化はインバウンド客獲得に不可欠だが、まずネックになるのは翻訳コストだ。

う。さらに、外国語版サイトが、日本語版のダイジェストで、外国人客に十分な情報を提供できるのかという問題もある。この点について同社WEB事業統括本部長水野真寿氏は、次のように語る。

「日本人客には常識でも、外国人客には理解が難しい、アクセスできないといった情報は少なくありません。ホテル・旅館にとって一番大切な予約ページでも、当該言語の文化に合わせたページ構成や翻訳が、予約に結びつけるために重要になっていきます。従来の人力による翻訳は、精度は高いもののコストもかさみます。当社としては、優れた自動翻訳を提供する企業とアライアンスを組み、コストパフォーマンスのよい多言語サイトを構築していきたいと考えています」

### 多言語自動翻訳も実用化

同社が導入を進めているのが、(株)ミニマル・テクノロジーズのWEBサイト多言語化開発ツール「WOVN:iO(ウォーブンドットアイオー)」である。WOVN:iOは既存のサイトに後付する形

で、サイトを多言語化。対応言語は30ヶ国語で、Google翻訳と異なる点は、人力の修正が可能で、AIによる機械学習により、翻訳精度を挙げられる点だ。こうしたITイノベーションとサイト制作のノウハウを組み合わせた提案が、アビリティコンサルタントの強みである。多言語サイトと、同社が提供する電話通訳サービス「マルコ」を利用すれば、ネット・リアル両面での多言語化を低コストで実現できる。

さらに、同社が手がける多言語コンテンツも注目だ。その一つが、国土交通省四国運輸局によるSNS&WEB発信「LOVESHIKOKU」。四国在住外国人がリポーターとなり、四国の魅力を写真や動画とリポーターの自国語テキストで世界に紹介するというプロジェクトである。宿泊産業にとって

SNSは、1to1営業では効果が見えないが、ツイッターやインスタグラムの個人拡散による地域興しには有効だというトレンドが見えつつある。各種SNSの利用動向に応じたコンテンツ配信をすれば、集客力を確実にアップできる。自社サイトやSNSの多言語化は、日本語コンテンツを翻訳しておけばいいという時代は終わったと言えるだろう。サイト改定に際しては、マーケット状況に応じた確かな多言語化を目指したい。



四国在住の外国人リポーターが、四国各地域の魅力を伝える「LOVESHIKOKU」プロジェクト